

平成28年度全国学力・学習状況調査結果の概要

伊那市教育委員会

1 調査の目的（文科省）

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 平成28年度調査実施日 4月19日（火）

3 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年

4 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

・主として「知識」に関する問題（A） ・主として「活用」に関する問題（B）

(2) 質問紙調査

・児童生徒に対する質問紙調査 ・学校に対する質問紙調査

5 教科に関する調査結果の概要と改善のポイント

(1) 国語

小中学校国語の学力はおおよそ定着していると言える。小学校では伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項において若干の課題が見られた。ローマ字の定着に課題があり、特に促音の標記や拗音の読みが不十分であった。促音や拗音に関わっては、ひらがなの読み、特殊音節の指導に関わる多層指導モデル MIM を有効に利用したい。中学校では、漢字の読み書きや読むことに関する事など授業での取り組みの成果が表れている。なお、読み取ったことを自分の考えと合わせて書くことに課題が見られた。授業では、読み取ったことや感じたこと、考えたことをグループで話し合ったり文章に書き表したりして、自分の持った疑問や新たな発見を明らかにしていく活動を取り入れてきているが、さらに積極的に友と協働して問題解決にあたったり、自分の考えを書き表したりする活動を進め、書くことに関する学力の向上を図りたい。

(2) 算数・数学

小中学校算数・数学は、数量や図形についての技能及び知識・理解において、基礎的な学力はおおよそ定着している。小学校では、百分率を用いた数量関係において課題が見られた。中学校数学では、図形領域において改善が見られたが、数量の関係を文字式に表わすことや文字式の意味理解に課題が見られた。具体的数値を使って数量関係を確認したり、文字式の持つ意味について説明し合う活動を取り入れたりする学習を大切にしたい。また、小中学校共に数学的な考え方に関わってわけを書くこと、事象を数学的に説明することに課題が見られた。授業の中で、課題に対して根拠となる数や演算の意味を明らかにして説明したり話し合ったりする学習をさらに充実させ、筋道の通った説明ができる力をつけていきたい。

6 児童・生徒質問紙調査から

(1) 伊那市の小中学生は、朝食を毎日食べることや決まった時間に寝起きすることなど、基本的な生活習慣はおおよそ身につけている。

(2) 携帯やスマートフォンでの通信時間は、全国に比して少ない状況にある。教育委員会では携帯電話等の使用に関する指針を示すとともに、「ネットトラブル相談事業」を実施し、ネットトラブルの未然防止と早期解決に取り組んでいる。

(3) 家庭学習は、1時間以上2時間未満が最も多く、次いで、30分以上1時間未満である。

※各校では、資料分析を行い、授業改善の方向を探り、具体化するとともに、個票を基に定着に課題のある内容について個別指導を行う。